

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：82620

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2022～2023

課題番号：22K20194

研究課題名（和文）言説分析を用いた保存修復家の職業像の研究：修復と医療の比喻をてがかりに

研究課題名（英文）Medical metaphors in art conservation: studying the image of the conservation profession through discourse analysis

研究代表者

大川 柚佳（OKAWA, Yuka）

独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所・文化遺産国際協力センター・アソシエイトフェロー

研究者番号：10952070

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、認知メタファー理論の知見を基に、文化財保存修復概念が、しばしば比較対象として引き合いに出される医療の概念を通じていかに形成されてきたかを追求した。保存修復学文献中にみられる「修復家は文化財の医者である」などの医療のメタファーの量的・質的分析を行った。結果、保存修復の役割は医療の比喻に基づいて善行として解されてきたと結論づけた。一方で比喻は、利害関係者間の調停や交渉といった、現代の保存修復実践において重要な役割を説明するには不十分であった。ただし、近年の医療概念の変化に鑑み、エンド・オブ・ライフ・ケアといった概念を取り込むことで修復の豊かな側面を説明できる可能性があることも示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

文化や地域を超えたコミュニケーションが重視される昨今の保存修復学において、言語による概念構築の重要性を指摘した点は意義深いと考える。なぜなら、保存修復を専門としない者との対話を通じて、時に保存修復の偏ったイメージが定着する可能性があるからである。そのような可能性を認識することは、議論による保存修復処置の意思決定プロセスに慎重さを与える。また、認知言語学の理論や社会学における批判的談話分析の手法を用いた本研究は、保存修復の学際研究の道を開拓したといえる。

研究成果の概要（英文）：This study investigated the influence of medical metaphors on the understanding of conservation, employing cognitive metaphor theory in linguistics as a framework. It conducted both quantitative and qualitative analyses of prevalent medical metaphors present in conservation literature. The results revealed that conservation is often perceived as a beneficial action akin to medical intervention. However, the analysis also revealed limitations in medical metaphors' ability to fully elucidate the complex role of conservators as mediators among stakeholders in modern conservation practices. Nonetheless, metaphors still hold promise in describing the diverse roles within conservation, particularly through introducing concepts akin to end-of-life care in contemporary medicine.

研究分野：文化財保存修復倫理

キーワード：文化財保存修復 概念メタファー 批判的メタファー分析 計量テキスト分析 保存修復倫理

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

近年の文化財保存修復学では、所有者をはじめ幅広いステークホルダーとの対話を通じた方針設計が重視される。そのため保存修復家は、自らの仕事の意義や役割を社会一般へ発信することが求められている。しかし保存修復の専門性は多岐にわたり、作品ごとにアプローチも異なるため、「保存修復とはどのような行為か」をうまく説明できない課題がある。

20 世紀の欧米圏の保存修復学では科学実証主義的な説明がなされてきたが、修復対象となる作品の多様化に伴い、近年ではアーティスト・所有者・コミュニティといった関係者間の調整役としての役割も修復家には求められている。このような専門性の拡大、すなわち修復家の職業像の変化を詳らかにする手法のひとつとして、保存修復について書かれたテキストを観察することが有用である。なぜなら、概念は言語によってその形を与えられ、変化していくためである。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、保存修復家が修復を語る際に慣例的に用いている医療の比喩に着目し、20 世紀後半以降の保存修復学分野の学術文献を対象に言説分析を行うことで、職業像がいかに形成されてきたかを明らかにすることである。

本研究は、「保存修復とはどのような行為か」という命題への取り組みの一端として位置づけられる。特に、近現代の修復の言説における医学と保存修復学の類比事例を収集・分類・分析することで、修復家自身が言語によってどのように自らの専門性を規定・発信してきたかを解明する。

本研究の独自性は、近年コミュニケーションが修復の一技能として重視される中で、修復についての語りを取り上げる点、とくに慣例化しつつもいまだ詳細な検討がなされていない医療との比喩を分析対象に据える点にある。また本研究の成果は、修復家の社会上の立ち位置を明確にし、専門職への理解を深めることに貢献する。今後の展開として、調査対象をメディアなどより一般的な修復認識にまで広げれば、修復家像の生成・展開の機序がより明らかとなる。さらに、本研究で修復と医療の類比関係が詳らかとなることで、医療制度が修復分野へどの程度応用可能かを検討する際にも役立てられる。

### 3. 研究の方法

#### (1) 保存修復論文における医療の比喩表現の収集(計量テキスト分析)

まず、対象とするテキストデータを決定し、そこに出現する比喩の数と種類を明らかにした。

対象データは、1975～2021 年に ICOM-CC 大会で発表された修復理論・歴史・倫理ワーキンググループの英語論文 120 本とした。PDF をテキストデータ化し、医療を用いた比喩表現の傾向を見るために、キーワード(surgery, age, health, remedy など)の出現数を、計量テキスト分析用ソフトウェア KH coder を用いて数え上げた。キーワードの選定には、辞書のほか、医療の比喩に関する先行研究を参照した。そして、キーワードの出現例をそれぞれ直接比喩、間接比喩、比較の 3 つに分類した。さらに、各事例の出現頻度と、比喩の種類を年代ごとに整理した。

#### (2) 批判的ディスコース分析(質的分析)

上記で得た知見をもとに、当該テキストから 6 種概念メタファーを導出し、比喩の事例を分類した。そして、それら概念メタファーが保存修復家の態度をどのように表象しているかについて、批判的ディスコース分析の手法を用いて分析した。これにあたり、医療と修復の概念を比較し、構造上の類似点を確認した。さらに両概念の社会における役割変化についても比較検討し、今後の効果的なメタファー使用について考察した。

### 4. 研究成果

#### (1) 計量テキスト分析結果

1975～2000 年代には「損傷は病である」「文化財には生命がある」など、ものを患者に例える比喩が比較的多くみられた。一方、2010 年代以降の論文では、医者と保存修復家の専門性の類似点に焦点を当てたものが多かった。また、後者では処置者の倫理観に関する医学の蓄積を、保存修復学に応用しようとする研究が散見された。このことは、1990 年代に比喩に対する批判が複数出現したと関連する可能性があると考えた。

#### (2) 質的分析結果

以下 6 種概念メタファーを導出することで比喩を分類した。「対象物は人間である」「対象物の状態は健康状態である」「損傷は病である」「修復は医療である」「介入は治療である」「保存修復家は医者である」。

また、医療と保存修復の両概念の目的と最終的な状態を比較することで、以下の点を明らかにした。保存修復を医学とみなす理解の中心には、保存修復家が、医者が患者を診るのと同じように対象を見るという考え方があり、保存修復において対象物の物質的・非物質的質を向上させることは、医者が患者の状態を健康にすることと比較される。この二点はすなわち、医療倫理

の4原則の一つである「善行」を、保存修復家像へ重ねることであると意味付けた。

以上の結果から、「職業像がいかに形成されてきたか」という問いに対しては以下のように結論付ける。医療の比喻は、善行としての保存修復活動を表現する役割を果たしてきた。しかし当該論文においては、2010年代以降は比喻の登場が減少し、代わりに医療倫理と比較しながら修復倫理を確立する方向へと進んでいる。その際に比較されるのは心理学的バイアスやストレスなど、高度な作業に係る人間的側面である。

医療の比喻の使用は、他分野の先行研究にもあるとおり、教育現場のほか、文化財の重要性を対外的に主張する場面においては効果的である。しかしながら、保存修復という職種の多面的な特徴を捉えるには十分とはいえない。医療の比喻は[保存修復家-対象物]関係を説明するには役に立つが、[保存修復家-管理者・所有者・コミュニティ]あるいは[対象物-管理者・所有者・コミュニティ]関係の複雑さを説明しきれない。このことを念頭に置かずに医療のメタファーを使用することは、コミュニケーションの齟齬をきたす可能性をはらむ。これを回避するために、比喻を用いる場面では、修復のどの側面を強調したいのかについて注意を払う必要がある。ただ、医療の社会的役割が変化していることに鑑み、エンド・オブ・ライフ・ケアといった新たな医療の概念を修復へ反映させ、修復の豊かな側面の説明を医療の比喻が担うことは依然として可能である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 OKAWA Yuka
2. 発表標題 A conservator as an art doctor: The role of medical metaphors in conservation
3. 学会等名 The 20th ICOM-CC Triennial Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------